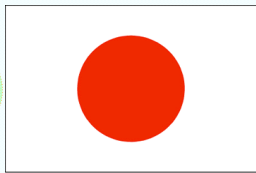


アミーゴ会だより

2023年10月
通巻第56号
季刊 2023-IV

www.mex-jpn-amigo.org



発行人：河嶋正之
編集人：河嶋正之
事務局：吉野 隆

メキシコへの誘い：歩行記 8

ぶらりメキシコ人旅 —イダルゴ州 もう一つの奥座敷 3: イスマキルパン— (Ixmiquilpan)

メキシコ・日本アミーゴ会 会員
写真家・ルポライター 阿部修二

はじめに

イダルゴ州都パチューカから国道 86 号線をどんどん北西に進んでいくと、道が先細りするかと思っていたらそうでもなく、意外に大きな町にたどり着いた。今日、人口が10 万に届こうとするイスマキルパンの町で、東と北の山並みが遠くに見えるから、かなりの平地がありそうだ。その南にお椀を伏せたような小高い丘があり、頂にはイスマキルパン征服の証しとしての巨大な十字架が一つ立っている。荒々しい土地にできたオアシスのようなこの町は、皺だらけの老人のような地肌をあらわにした山がすぐ傍に見えるのに、町を貫流するトゥーラ川周辺には植物が自由を獲得したかのように喜々として、散策する人々の目を楽しませ、日陰を提供している。



街を縁取るトゥーラ川

この町の、今日、サン・ミゲル・アルカンヘル教会に変名した旧アウグスチヌス会の修道院・教会は、キリスト教の慣例に従って信者がキリスト教の聖地エルサレムに向かって手を合わせられるように西向きの建物だが、その配置は 16 世紀メキシコ都市整備計画の轍を拒んでいる。本来ならば修道院・教会の前には広大なソカロ（中央広場）が配置される。だがここではその前を主要道路が走り、その道筋に民家や商店が並んでいる。そして修道院・教会の北隣には変則的に長方形のソカロがあり、さらにその北辺に町の庁舎が建っている。

ではなぜこんな配置になってしまったのか。先述したように教会前の主要道には民家、商店が張り付いていたために気がつかなかったが、その裏手には幅が 20 メートルほどのトゥーラ川が流れていて、そのために教会前に正方形の大規模なソカロを配置することができなかったのだ。それでも、見るところ修道院・教会裏手には十分なスペースがあり、建物をもっと東にレイアウトすれば解決できたと思うのだが、この教会のある位置は、先住民イスマキトルの重要な宗教上のモニュメント、ピラミッド神殿があった所だと私は想像している。イスマキルパンはこの一帯を支配したメツティトラン族の首都であったと知られている。きっとその神殿の規模も大きかったにちがいない。そして、征服者スペイン人は、そのイスマキルパンに住むメツティトラン族の宗教回帰を防ぐためにそれを根こそぎにする必要があったのだ。

この町名イスマキルパンはオトミ語で「黒曜石のナイフ」または「火打ち石」



教会北に位置する中央広場

＝ 目 次 ＝

- 1.メキシコへの誘い:「ぶらりメキシコ人旅 8-イダルゴ州もう一つの奥座敷 3:イスマキルパン」 会員 阿部修二...1
- 2.アミーゴ会活動報告:「2023 年度メール総会の概要報告」 幹事会 ... 5
- 3.アミーゴ会活動報告:「第 22 回 Fiesta Mexicana in お台場 2023」 実行委員会 三村秀次郎 ... 6
- 4.メキシコ短信:「2024 年大統領選挙:メキシコ初の女性大統領誕生へ」 編集部 ... 7
- 5.メキシコ短信:「AMLO 大統領高支持率持続:9 月調査 58%」 編集部 ... 8
- 6.私の本棚:「奴隷制の歴史」 翻訳 by 会員 所 康弘 ... 4 / あとがき... 8

を表すイストリと、「良く切れる」または「良く耕せる」を表すケリテ、そして「土地」を表すパンからなり、「良く切れる石の豊富な土地」または「良く耕すことのできる豊かな土地」を意味するらしい。

イスミキルパンの不思議

イスミキルパンの旧アウグスチヌス会修道院・教会が、16世紀メキシコの「封印された半世紀」の宗教建築として最も興味深いのは、教会正面玄関にあるルネッサンス風の端正な意匠のせいではない。その理由は、教会の中に足を踏み入れるとすぐに分かる。左右の壁にアステカ帝国時代のピラミッド神殿に描かれていたと思われる戦闘シーンが、まさに稚拙なタッチで描かれているからである。



教会入り口右の壁画



上部ワシ、トラ、ヒョウの図

ジャガーの衣装をまとった戦士、弓を引く人頭馬、切り落とした首を掲げる兵士、コンドル、弓を射ようとする兵士、幟を持って何やら大声で叫んでいる兵士、楯を構え石の棍棒を振り上げる兵士、そして切り落とされた人の首が巨大な蔦植物の装飾の中にひしめき合っている。植物の枝葉は、時としてゴシック建築に登場する火をはく奇獣に変身する。



教会の柱間に描かれた戦闘図 1



教会の柱間に描かれた戦闘図 2

プレヒスパニック時代の絵記録に見られる、発声を意味する口から吐き出される炎のようなマークが、ここにも見えている。これはまさしくメツティトラン族とコルテス率いるスペイン軍との戦記を描いたものではないか。

この勇ましい壁画に対して、教会奥の天井円ドームとそれに続く半円ドームの花弁模様のリブ（円天井を力学的に支える骨組みを装飾に利用した石材建築構造）、さらに玄関入口上部の聖歌隊席を支えている鍋型ドームの装飾リブの隙間にある絵は、誠に繊細で優雅

な印象を与えている。このモチーフと色彩は、同じく前々回に紹介したアクトパンの洗礼室のドーム天井に見られるものと同じで、この地を担当したアンドレ・デ・マタ神父のアイディアのようだ。メキシコ先住民がピラミッド神殿に残した数々の壁画と同じく、エメラルド・グリーンと赤との調和がまるやかで優雅、見事な装飾である。アザミやハイビスカス、ナデシコの花や名も知らぬ草花が、花瓶や鳥や小動物と共に不規則な三角形のスペースに構成されている。

そのなかには、二匹の白蛇の首を両手に持ち、乳首から乳を与えている女人像や、軍隊のバトンを握るコ



入り口天井の白蛇に乳を与える女人の図

ンドルの絵などマカ不思議な絵も含まれている。それらがどんな物語を秘めているのかは分からないのはきわめて残念だ。ひとつひとつの構図もそうだが、全体的にみて複雑な色彩構成も見事で、見る者を飽きさせない。これらの絵に見える墨の縁取りと色使いは、メキシコ先住民のピラミッド神殿に描かれている絵と同じだが、色に濃淡があり、より写実的であると言う意味で洗練されたヨーロッパ風の作品である。

さて、教会入り口の壁面に描かれたメツティトラン族の戦闘シーンは、これらのリブの間に描かれた優雅な絵とはまったく異質な絵であることは写真を見ていただければ分かると思う。それはモチーフもさることながらタッチもまったく異なっている。何処となく泥臭く素人の雰囲気が漂う。この町の高齢の文化担当のドクター・カルロスさんを訪ねたら、何度もコピーを繰り返した4枚の資料をいただいた。それによれば、その壁画の一部は1955年に剥落した白壁の下に発見れ、その6年後に全体像が顕わにされたのだそうだ。



教会入り口左の壁画と
コンドルを模したキリスト像

この壁画がいつの時点で描かれ、いつの時点で白壁に覆われたのか。興味のあるところだが明らかではない。誰がキリスト教会の中に、こうした先住民の意匠を、本来ならばピラミッドの壁面に描かれなければな

らない戦記を描いたのであろうか。私の想像では、この修道院・教会が完成した時点では壁面には絵が描かれていなかったが、教会の建物がめでたく完成し、建築家の手が離れたとき、あるいは、修道士が不在だった時期（征服後 50 年間に、各修道会は改宗を急ぎ、メキシコ各地に 80 以上の修道院・教会を建設していたために修道士不足が顕著だった）に絵心のある先住民がこの絵を描いたのではないかと思う。スペイン人の監視の下、先住民の手で建てられた教会の白い壁であっても、えせキリスト教徒にとってはピラミッド神殿の壁そのものであり、彼らの祖先がしたように、16 世紀の壮絶なスペクタクルを記録に止めておこうとしたのかもしれない。以前、私は拙書の中で、彼らは、慈悲深く高德のマタ神父に、教会の白壁に絵を描くことを願い出たかもしれないと書いた。が、彼が「奇跡の神父」と呼ばれていたものの、その可能性は低いと今では思う。その理由は、スペイン人聖職者は先住民の宗教回帰を深く恐れていたからである。

実は、この壁面の戦闘シーンのお手本と思われるものが、教会の筒型ドームと側壁との接線に帯状に描かれている。建築当初の古いものだ。その絵はヨーロッパ



天井ドーム下の帯状装飾



帯状装飾の拡大図

バから持ち込まれた壁紙の見本帳をまねて、先住民が筆で描いた物のようで、モチーフは人頭馬トリトンと戦争が描かれている。先住民は、そうしたモチーフが教会内に許されていることを根拠に、メツティトランの戦闘シーンが教会の白壁に容認されるはずだと信じ切った節がある。

しかし、新しい修道士がここに赴任することが分かると、イスミキルパンの住民は報復を恐れて急遽、白い漆喰で覆ってしまったのだと思う。こうして、メツティトラン族とスペイン兵との戦闘シーンは 400 年の眠りについたと私は想像している。

被征服後、スペイン人の圧政に苦しむイスミキルパン人は、勇敢に戦った先祖を敬い、その戦記を遙かな時代を越えて伝えようとしたにちがいない。この教会のあった所には、もともと先住民のピラミッドがあり、その壁面には彼らの歴史が刻まれるべきだったのだ。

母親のための「子供の日」

イスミキルパンに滞在中のある朝、教会北にある中央広場ソカロからの大きな音で目を覚ました。じっとしておれず、なにごとかとさっそくカメラを担いで出

かけた。朝 8 時、ソカロにはおおげさに扮装をした子供たちがたくさん集まっていた。町の幼稚園の合同学芸会が、舞台も屋根も照明も幕もないソカロで始まるようだ。

カウボーイに扮した子供、赤ずきんに扮した子供、狼に扮した子供、大きな花に扮した子供、豚に扮した子供、本来なら大道具として作られるべき岩や小屋に扮した子供などもいる。幼稚園ごとに競争をしているのだろうか、それぞれの衣装が過剰に凝っているのだから驚く。日本なら、例えば豚に扮する場合、豚のお面を頭に乗っけて、間に合わせに豚の色に似た洋服を着るだけだが、ここイスミキルパンでは、スポンジで作った着ぐるみを頭からスッポリとかぶっている。これはまさしく、先の教会の壁に描かれていた先住民戦士



花の妖精



着ぐるみに凝るイスミキルトルの未裔

の出で立ちではないか。

その最たるものがニトリで、つなぎのような洋服に、白、黄、ピンク色の本物の無数の鳥の羽がびっしりと縫いつけられている。なんたる労力。これらの衣装はすべて母親たちの手作りである。ただ一度の演劇発表に使うために、これだけ手の込んだ衣装を用意する「メキシコの母」に脱帽なのだが、彼女たちはそれを心から楽しんでいる風だ。緊張した子供たちの演技の間、ビデオやカメラを構えるメキシコ



母親に 1 等賞をあげたい



晴れの日のために



半端でない母親の愛情表現

の母親たちの場所取りもそれに劣らず熱心だが、それはどうも世界共通のことのようだ。

その日の夕方、今度は母親たちのパレードがあった。実は今日は「子供の日」だという。各地区から母親たちが扮装して出演するようだ。修道院・教会前をスタートして町を一周する。鼓笛隊、ダンス・チーム、バトントワラーなど



こどもの日：母親たちのパレード



こどもの日：母親たちのパレード

が続き、物語の役に扮した母親たちがグループごとに行進する。いったいどこからこんなに大

勢の人がソカロに集まって来ているのか。

日が大きく西に傾くころ、イスミキルパンは風の町に変わった。強風はカウボーイ・ハットにミニスカートの女子高校生のダンス・チームを悩ませているが、

みんなの表情は明るい。メツティトラン族の血を引く彼女たちの褐色の口元からこぼれる白い歯が、とてもさわやかだった。



菊池桃子さん？



教会とダンシングチーム

【写真複製不可】 【連載その8完】

阿部修二会員に「ぶらりメキシコ人旅」と題して、メキシコのあちこちを訪ね歩いたエッセイを連載していただいています。

- 第1回(2022年1月号)：トラスカーラ
- 第2回(同4月号)：ケレタロ
- 第3回(同7月号)：ハルバン&コンカ
- 第4回(同10月号)：ランダ、ティラコ&タンコヨル
- 第5回(2023年1月号)：シリトラのエドワード・ジェイムスの庭
- 第6回(同4月号)：イダルゴ州の奥座敷「良く肥えた土地」アクトパン
- 第7回(同7月号)：イダルゴ州の奥座敷2：サン・アンドレス・ティアンギステンゴ
- 第8回(同10月号)：イダルゴ州のもう一つの奥座敷3：イスミキルパン

阿部さんは2005年よりアミーゴ会会員。1947年岩手県花巻市生まれ。岩手大学工学部卒及び桑沢デザイン研究所ビジュアル・デザイン科卒。日本写真家協会元会員。メキシコ教会美術に惹かれ1986年より毎年渡墨。2005年以降4冊のメキシコ関係書籍を発行。最新作は『先住民のメキシコ征服された人々の歴史を訪ねて』(2021年9月刊 明石書店)です。

【写真転載不可】

<編集部>

私の本棚

『奴隷制の歴史』

ブレンダ・E・スティーンソン 著

英国オックスフォード大学教授

所 康弘 訳

明治大学商学部教授・アミーゴ会会員

ちくま学芸文庫 2023年8月 368頁 1,400円+税

訳者の所 康弘会員から戴いた紹介文の一部を記します。『スティーンソン先生はアフリカ系アメリカ人研究の第一人者であり現在、UCLA 教授（歴史学）とオックスフォード大学教授（女性史）を務めています。本書『What is Slavery?』（2015年刊）では全世界に満遍なく存在する奴隷制とその起源、奴隷貿易、もっとも嫌悪すべき頂点たる米国の奴隷制を中心に、非人間的な狂気の歴史が綴られています。』

『奴隷制という制度的人種差別や植民地主義の遺産はいまでも、メキシコを含む南北アメリカ社会の至る所で残っており、その史実への十分な理解、ならびに人類史における差別の起源を考察する際の一助として、本書を役立てていただければ幸いです。』

*詳細な内容紹介は訳者の手になる書評文「月刊ちくま」（筑摩書房 PR 誌）2023年9月号掲載—を参照。

本書の記述は、北米植民地社会でのアフリカ人奴隷の導入事例と南北戦争前の奴隷制と反奴隷制のせめぎあいを中心であるが、第1章では古代世界の、中東・アジア・アフリカの、欧州とオスマン帝国の、「接触」以前のアメリカ大陸の奴隷制が扱われる。第2章ではアフリカでの奴隷取引の起源と大西洋奴隷貿易の実相が詳述される。第3章では北米植民地世界（英領植民地・独立戦争期）におけるアフリカ人奴隷制が記述され、西仏蘭の初期入植地の奴隷制についても解説される。第4章では南北戦争前の米国社会での奴隷制賛成派と反対派の対立が描写され、1863年のリンカンによる奴隷解放宣言発布、1865年12月6日の米国憲法修正第13条成立で米国の“古典的”奴隷制の終焉に至る。

メキシコの奴隷制廃止は1829年で、このとき米国から逃亡奴隷がなだれ込んだという。本書は中南米諸国でのアフリカ人奴隷導入期の諸相を知る参考になる。

米国ではいま、大学が過去に「奴隷制」に関与したことを総括し、謝罪や校舎の冠名変更・子孫への奨学金供与などの“償い”に取り組んでおり、米国社会の“賠償”を巡る議論を今後方向付ける可能性もあるという。バージニア州議会は2021年、1865年以前設立の5公立大学に「奴隷制度との歴史的つながりが実証された」個人や地域社会に奨学金や経済開発計画を導入すべきと、全米で初めて決議した（「奴隷制の過去に向き合う大学、子孫への奨学金などで償い」9月17日付ロイター電）。また、米英の奴隷制廃止から約200年後のいま、祖先が著名な奴隷所有者だった英国系財閥の子孫は「奴隷制度の相続人たち」を編成して、カリブ海の元植民地国の大学に奴隷制研究資金を寄付しており、“人道の罪に「時効」なし」という新潮流が生まれている（「謝罪する子孫たち」9月15日付毎日新聞「金言」）。

米国奴隷制のミクロの歴史を理解し、いまでも社会の底流に渦巻く差別意識の根深さを理解するためにも、本書はいま読むべき好著だ。（編集人）

2023年度メール総会の概要報告

2023年度のメキシコ・日本アミーゴ会総会は感染症動向に鑑みて対面総会を避け、8月11日付けメルマガで議決権行使日を9月13日とし改訂名簿記載会員104名に諮り、全議案が承認されました。この旨を幹事会は9月14日付けで会員にお知らせしました。以下に概要を再掲し会員の皆さまのご確認に供します。 幹事会

会員の皆様

2023年9月14日

メキシコ・日本アミーゴ会会長 河嶋正之

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナ感染症対策のため書面による総会となりました本年の定期総会は9月13日に実施した議決権行使書(メールおよび書面)による賛否投票の結果、下記の通り全議案が異議無く承認されましたので茲許ご報告申し上げます。 敬具

記

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 第1号議案:2022年度事業・決算報告に関する件 | 原案通り可決承認されました。 |
| 第2号議案:2023年度事業計画及び予算案に関する件 | 原案通り可決承認されました。 |
| 第3号議案:会則改訂に関する件 | 原案通り可決承認されました。 |
| 第4号議案:幹事の退任および再任の件 | 原案通り可決承認されました。 |

第1号議案:2022年度事業・決算報告

2019年9月の設立20周年記念昼食会以降コロナ感染症の拡大で総会・懇親会・講演会など対面事業が開催できず、2022年度も同様でした。会報「アミーゴ会だより」は年4回発行を維持し、「2021年度決算案・2022年度予算案」は会報「2022年4月号」で誌上報告し会員の承認をお願いしました。第22回フィエスタ・メヒカーナinお台場Tokyo 2022(9月23日~25日)に本会は協賛金10万円を計上して後援を行い、開会式では河嶋会長が挨拶しました。懇親ゴルフ大会は12月13日に開催するも当日降雨のため急遽中止しました。

アミーゴ会HPの改善(改修)につき幹事会で基本的検討事項の洗い出しに着手しました。なお、2022年度末の会員名簿登載者は136名でした。

第2号議案:2023年度事業計画・予算

2023年5月のコロナ感染症第5類変更に伴い、6月13日に対面幹事会を開催、総会・懇親会の対面実施は時期早尚として書面による総会を行うことを決めました。

メキシコ歴史・文化講演会は大使館とも協議し、古代メキシコ文明(アステカ・マヤ・ティオティワカン)をテーマに専門家による全3回の講演会を企画中です。

第23回フィエスタ・メヒカーナinお台場Tokyo 2023(9月16日~18日)に協賛金10万円を支出して後援し、開会式では河嶋会長が挨拶し、プリア大使の主導でグリーティングが挙行されました。懇親ゴルフ大会は予定通り7月11日に実施し、会報「7月号」で報告しました。

アミーゴ会HPの改修を継続します。さらに郵貯口座を解約し、みずほ銀行口座のみと合理化しました。

本年は日墨国交樹立135周年です。特別展「メキシコ古代文明」が3都市で順次開催中です。様々なメキシコ関連事業をメルマガで会員にご案内します。

第3号議案:会則の改定

改定箇所は第2条事務局長交代に伴う事務局所在地の変更および第10条会員資格喪失会費未納期間の1年から2年への延長(注:改定後会則をHP掲載済み)。

第4号議案:幹事の退任および再任

現幹事は2019年総会での再任以降コロナ禍のため再任手続きが会報誌面でなされ、今回のメール総会で改めて全員の再任が承認されました。

再任幹事:河嶋正之、上原尚剛、森 和重、日笠 徹、南郷茂伸、石井あけみ、笠井道彦、吉野 隆、市井勇人(関西代表)

また、会則13条に従い幹事会で役員を互選しました。役員:会長:河嶋正之、監事:南郷茂伸、事務局長:吉野 隆
なお、事務局長は2023年1月16日付けで笠井道彦幹事から吉野 隆幹事に交代し、会報「2023年7月号」で通知しました。また、メキシコ在住の遠藤滋哉会員には「メキシコ代表」としてのご尽力を委嘱しています。

2022年度決算(2022/1/1~12/31)

収入の部		備考
会費	215,115	65名+御宿アミーゴ会
収入合計	215,115	
支出の部		備考
前期分未払金	100,000	21年度分事務局&編集部
HP維持管理費	35,500	
FM2022協賛金	100,000	FM実行委宛て支出
懇親ゴルフ会	13,840	賞品等事前購入費
事務局費・編集部費	100,000	各5万円/年
幹事会開催費	8,560	会議室料+幹事交通費
事務局諸費	161,411	小口支払い+郵貯手数料
支出合計	384,041	
当期収支	△168,926	
2022年期末残高	2,840,600	ゆうちょ&みずほ預金計

2023年度予算(2023/1/1~12/31)

収入の部		備考
会費収入	470,000	150名分+御宿2万円
事業収入	90,000	総会・懇親会参加費
収入合計	560,000	
支出の部		備考
事業費	440,000	
総会・懇親会費	150,000	参加費@5千円 x 30名
講演会事業費	90,000	講師旅費+開催費など
懇親ゴルフ会	50,000	7月11日開催済み
特別行事費	50,000	事業費予備費
2023FM協賛金	100,000	支出済み
管理費	283,000	
HP維持管理費	40,000	
西日本幹事経費	48,000	幹事会旅費+懇親会補助
事務局費・編集部費	100,000	各5万円/年
経理事務委託費	30,000	
事務局諸費	65,000	通信費・消耗品費など
支出合計	723,000	
当期収支	△162,999	
2023年期末残高	2,677,601	



第 22 回フィエスタ・メヒカーナ 2023 in お台場 Tokyo

Fiesta Mexicana 御礼とご報告

22 in お台場 Tokyo 2023

日本ラテンアメリカ文化交流協会
会長 三村秀次郎

9月16日～18日の3日間、東京都港区お台場の「お台場デッキ」で開催致しました「第22回フィエスタ・メヒカーナ 2023 in お台場 Tokyo」は幸い3日間共好天に恵まれ、盛況のうちに無事終了致しました。今年は記録的な暑い日が続き、フィエスタ当日もかなりの高温で熱中症などの心配を致しましたが、そのような事態もなく、コロナ明けで規制も無くなったため外国人を含めた多くの来場者がありました。3日間約10万人と想定しております。

初日のオープニング・セレモニーでは、メキシコ大使、東京臨海副都心まちづくり協議会・中林久則事務局長、外務省中米カリブ課・佐藤真一課長、日墨交流会・所康弘会長、日本・メキシコアミーゴ会・河嶋正之会長にもご挨拶をいただきました。今後ますますのメキシコと日本の文化交流、相互理解の発展を願って、来年も開催に向けて邁進したいと思います。関係各位の皆様、とりわけ日本・メキシコアミーゴ会の皆様の一層のご指導、ご鞭撻をお願い致します。



2024年大統領選挙：メキシコ初の女性大統領誕生へ

まとめ：編集人

メキシコ大統領選挙は2024年6月2日(日)に投開票が行われる。左派与党の「国家再生運動：MORENA」は9月6日、大統領選挙の党公認候補として前メキシコ市長のクラウディア・シェインバウム氏を選出した。他方、野党連合「メキシコ拡大戦線：FAM」は9月3日、上院議員のソチル・ガルベス氏を公認候補に選出している。今回、与野党ともに女性候補を選任したことにより、メキシコで最初の女性大統領が誕生する。

大統領選挙の趨勢については、本年6月に行われた地方選挙で、メキシコの最大人口州であるメキシコ州で、かつ野党（伝統政党のPRI）が約100年余も堅持してきた州知事の座を与党MORENAが奪った実績もあり、さらに現職のアンドレス・マヌエル＝ロペス＝オブラドール AMLO 大統領の高い人気を背景に、メディアの世論調査では与党候補への期待が10%ポイント以上もリードしている。新政権でも現在の保護主義的政策基調が継続されようが、プロビジネス潮流への政策の変化も期待される。

今後の選挙日程は連邦選挙監理庁INEによると、11月20日から2024年1月18日を各党派内の候補選出期間として1月24日に決定し、2月29日に大統領と上下両院議員候補を正式にINEに届け出る。その後は3月1日から5月29日までを公式の選挙運動期間とし6月2日の投票日を迎える。新大統領・議員は10月1日に就任する。

また今般の選挙では大統領、9州の知事*、連邦上下両院議員、31州の州議会議員（除コアウイラ州）、メキシコ市の16区長、数多の自治体役職が選出される。

*9州知事：メキシコ市、チアパス、グアナフアト、ハリスコ、モレロス、プエブラ、タバスコ、ベラクルス、ユカタンの各州。

与党候補はメキシコ市長のシェインバウム女史

クラウディア・シェインバウム Caudia Sheinbaum 前メキシコ市長（1962年生）は、社会的配分の拡大やエネルギー分野の国家介入などを柱とする現政権の「第4の変革4T」を引き継ぐと言明し、選挙管理庁の独立性抑制、裁判官の選挙選出制にも賛成している。他方、政策立案面では実務重視アプローチをとり、ビジネスには現政権に欠ける政策の予測可能性と確実性が不可欠だと述べる。外資系企業が米国の隣国メキシコに生産拠点を移転するニアショアリングを促進し、メキシコ労働者が確実に利益を得られるようにしたいとも述べている。環境政策では、環境問題専門家として、クリーンエネルギー転換を加速するとし、対米関係は服従ではなく対等の関係構築を主張している。また、メキシコ市長として首都圏の殺人事件発生率を抑え込んだ実績もあり、メキシコ社会の喫緊課題である犯罪抑止への貢献も期待が高い。



シェインバウム候補が遊説演説で強調する主な論点は10月中旬現在、①国民の健康確保と適切な医療の提供、②相応しい仕事と適切な賃金による快適生活の保障、③次世代国民育成を目指す質の高い教育の確保、④人口移動への対策と社会包摂計画の拡充などだ。

シェインバウム候補はメキシコ市のユダヤ人中流家庭の出身で、国立自治大学UNAMで物理学の学士号、エネルギー工学の修士号と博士号を取得した。2000年にAMLOメキシコ市長の下で環境局長に就任。2015年選挙でトラルパン区長に選出され、2018年にメキシコ市長に当選している。

MORENAの党内統一候補の選出は民間調査会社5社の世論調査により決定され、シェインバウム候補が平均39.4%を獲得し、2位のマルセロ・エブラル前外相の同25.8%を引き離して選出された。この結果にエブラル前外相は不満を表明し、他党（市民運動：MC）への合流も示唆している。なお、シェインバウム候補はMORENAと与党連合を組む予定の「労働党：PT」と「緑の党：PV」の統一候補となる予定だ。

注：掲載写真はWikipediaより転載。

野党連合候補は上院議員のガルベス女史



野党連合は国民行動党 PAN 所属の女性上院議員ソチル・ガルベス Xóchitl Gálvez 氏（1963年生）を公認候補に指名した。野党3党連合（メキシコ拡大戦線FAM：PAN、制度的革命党PRI、民主革命党PRDで構成）は前回の候補者乱立で敗北した事態を踏まえて野党統一候補を模索してきたが、過去の汚職イメージから脱却できない有力候補者の人気低迷が続いた。そこへAMLO大統領がガルベス候補を“強敵”とみて集中的に批判したため逆にクリーンな候補として人気が急上昇し、党内予備選終盤に他2党の有力候補者が相次いで辞退する事態となった。

ガルベス候補は公認指名式典で「大きな誇りを持って指名を受ける」と述べ、スペイン語で受諾演説をする前に先住民の言葉で挨拶した。式典参加者からは「先住民や貧困層、中産階級など全ての人々を救い出し、経済を活性化してくれる」と期待の声が聞かれる。同候補は詳細不明ながら、公共サービスの改善を訴え、クリーンエネルギー開発を担う国営企業設立を表明している。また、メキシコ人はロボット工学やAIにもっと習熟すべきとも述べている。他方、同候補は“初心者”の政治家ではなく（1989年のPRD創設メンバーの一人）、シェインバウム候補にとって手強い相手となるだろうと論評される。

ガルベス候補は先住民オトミ族家庭の出身で苦学してUNAMのコンピュータ工学士となり、エンジニアとして起業して成功した。2000年代前半には当時のフォックス政権で先住民政策担当大臣を務め、2015年にはメキシコ市ミゲル・イタルゴ区長、2018年には上院議員に当選というサクセスストーリーの持ち主だ。汚職の噂もなくカリスマ性を持つ人物とされ、貧困者や先住民の共感を得る低所得者政策を明確に打ち出せば、野党連合には最善の候補だとも指摘される。

ガルベス候補は対米協調下に一層の経済関係緊密化を図ろうが、ニアショアリング事業戦略をメキシコへの投資誘致のチャンスとみていると言われる。

注：掲載写真はWikipediaより転載。

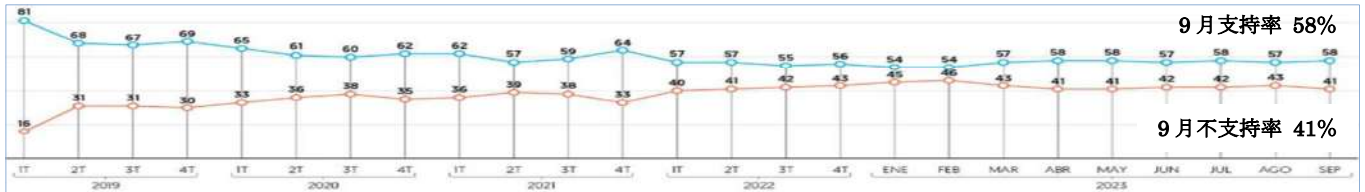
AMLO大統領の高支持率持続：9月調査58%

まとめ：編集人

アンドレス・マヌエル＝ロペス・オブラドルAMLO大統領の任期は2024年9月30日までで、残すところ1年となった。AMLO大統領は所属政党「国家再生運動：MORENA」の創設者でもあり、2018年12月1日の就任以来60%前後の高い支持率を確保している。本稿では金融紙El Financiero紙が10月2日付電子版で掲載した「9月度月例世論調査」により、AMLO政権の国民による業績評価を概観したい。同政権の支持率は常に高位安定で推移しており、9月調査でも8月比1%ポイント増の58%と手堅い評価を得ている。他方、不支持率は41%と前月比2%ポイント減少している（図1）。

なお、次期大統領選は2024年6月2日に投開票され、新大統領は10月1日に就任する。早くも与野党ともに女性の党統一候補を選出して事実上の激しい選挙戦（全国遊説）を繰り広げているが、今日現在の勢はメキシコ初の女性大統領には与党候補が優勢とする見方が多数だ（別項記事参照）。

図1. AMLO大統領の支持率推移(%)

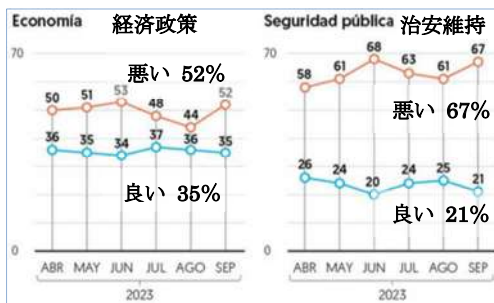


*出所：10月2日付記事：[AMLO inicia su último año de Gobierno: Aprobación fue de 58% en septiembre – El Financiero](#)

政策課題別の評価

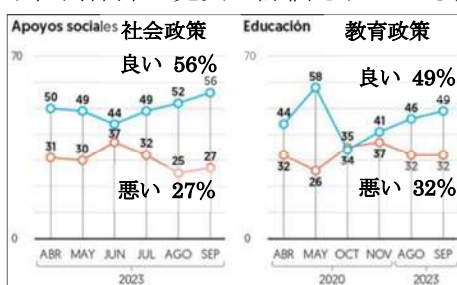
AMLO政権の政策課題別の評価は、経済政策も治安維持政策も評価が下がり、経済分野では良い（＝とても良い＋良い）が35%と前月比横ばいだが、悪い（＝とても悪い＋悪い）が52%と同8%ポイントと急増した。インフレ高止まりや経済活動停滞など傾向がが国民生活に影響したようだ。また、治安維持の評価も良いが21%と低下し、悪いが67%と同6ポイント増加した。背景にはシナロア・カルテルの暴力横行やチアパス住民の平和運動などがあるようだ。

図2. 政策課題別評価の推移(%)

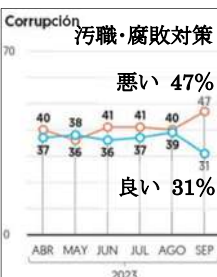


策など低所得者向け社会保障の充実が評価されている。

また、教育政策は良いが49%と上昇しており、悪いは32%と横ばいだった。教育省公定教科書（無償）の記述内容の正否を巡る論争が生じたが、高い評価に影響しなかった。



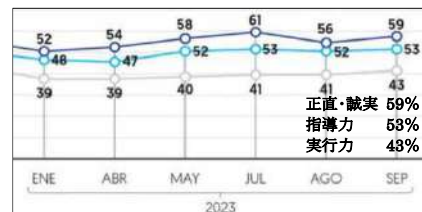
高い評価に影響しなかった。



汚職・腐敗対策の評価は良いが31%と前月比8%ポイント急減し、悪いが47%と同7%ポイント増加した。この時期に全国体育協会CONADEトップの不正疑惑が表面化した。AMLO大統領が擁護したことが影響しているようだ。

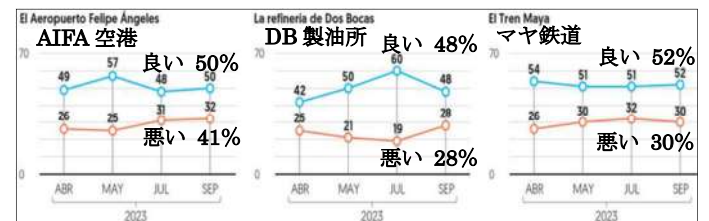
AMLO大統領の個人評価

AMLO大統領の個人的資質（属性）のうち、正直・誠実な人間とみる人々が59%と8月調査から3%ポイント増えている。指導力についてはほぼ横ばいの安定的な評価で53%と前月比1%ポイント増だった。他方、政策実行力の評価は相対的に低い傾向が続き前月比1%ポイント増の43%だった。



AMLO政権の公共事業の評価

AMLO大統領が巨額の予算を投入して進める三大公共事業のうち、メキシコ市街と新国際空港AIFAの連結鉄道建設およびマヤ観光鉄道建設はそれぞれ50%、52%と横ばいの支持を確保している。前者は土地買収問題が残り2024年第3四半期の完成が見込まれる。後者はユカタン半島の遺跡や観光地を巡る環状鉄道で、今年末には全通する予定という。他方、ドス・ボカス製油所新設案件は前回7月調査比12%ポイント減の



48%と急速に支持を失った。同製油所はガソリンの完全自給を目指して同大統領の出身地タバスコ州に建設された国内7番目の巨大精製施設で、政府は2022年7月に第1期工場の操業開始を宣言している。

あとがき：マツコの国・メキシコに来年、史上初めて女性大統領が誕生。時代を先取りする中南米の象徴。地球では何故か硝煙が充満。平穏な日々の再来を念願。日本列島では漸く降雪・降霜で秋冷到来と思いきや夏日の連続で読書の秋堪能は道遠し。編集子は第7回接種後疑似感染で不調続き。本誌発行がまたまた大幅遅延。お詫びあるのみ。次は早くも新年号の編集。読者のご寄稿をひたすら鶴首。[20231022か]